

長野地域 食育だより

令和2年3月 第6号
発行：長野地域食育推進連絡会
事務局：長野県長野保健福祉事務所
健康づくり支援課内
所在地：長野市中御所岡田98-1
電話：026-225-9045
E-mail：nagaho-kenko@pref.nagano.lg.jp

▶ 今回は「信州の食でつながる 人づくり・地域づくり」をテーマに、地域で取り組んでいる食育活動について紹介します。

「つながる食育推進事業」

須坂市の取組から

北信教育事務所 学校教育課長 坪井 扶司夫

本年度、文部科学省委託事業として、須坂市において「つながる食育推進事業」が実施されました。「児童生徒の自己管理能力を育成することにより、生活習慣が整い、体力向上・学力向上につながることを児童生徒、保護者、教職員に周知し意識改革を図るため、市町村教育委員会と連携した学校における食育事業を実施するとともに、この取組を通じ近隣地域の栄養教諭間の連携を強化し資質向上につなげる」ことを目的として行われた事業です。

モデル校の中学校では、卒業後は学校給食をとることができなくなることを見据え、自らの身体組成データを分析し、食生活を振り返りながら今後の健康的な生活をめざして自己課題を見だし、自らの実践への意志決定をしていく授業が、栄養教諭と学級担任によるチームティーチングとして公開されました。自らの骨密度や体脂肪の具体的な数値と食生活を関係づけて、生活改善の具体を考えあう生徒の姿がありました。

「地域の子どもたちの心と身体を健康に育てたい」という思いを共有し、発達段階に応じた「つける力」をめざし、市、市教育委員会、学校、家庭、地域の連携が有効に働いている取組であり「いのちをいただく教育」「あなたはこの食で食べているのでできてい」(You are what you eat)」等々、食育として大切にすべき多くのことをこの取組から学ぶことができます。



©長野県アルクマ

信州の食でつながる 人づくり・地域づくり

持続可能な食育の推進に向けて 長野県立大学 健康発達学部長 笠原 賀子

持続可能な開発目標 (SDGs)。最近、この言葉をよく耳にします。これは、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2015年9月国連サミットで採択された17の目標を指します(図)。この目標の下には、169のターゲットと232の指標が定められていて、栄養と食は、すべての領域と相互関係にある重要なテーマです。

持続可能な開発目標 (SDGs)



目標1「貧困をなくそう」、目標2「飢餓をゼロに」、目標3「全ての人に健康と福祉を」をはじめ、身近な例としては目標12「つくる責任、つかう責任」があり、食料廃棄・ロスの削減が謳われています。長野県では平成22年度より「食べ残しを減らそう県民運動～e-プロジェクト～」を掲げ、平成29年度の県民1人1日当たりのごみ(一般廃棄物)排出量は817gでした。この数字は「4年連続」ごみ排出量が少ない都道府県1位!という素晴らしい結果を獲得しています。2020年度には800g達成をめざして、住民一人一人の意識と実践が求められています。

さらに、お米150.0%、果物177.9%、野菜244.8%という長野県の食料供給力(平成25年度)もSDGsを支える大切な要素です。これらは信州の美味しい空気・水・土、そして太陽があつてのこと。豊かな自然を守る努力も忘れてはなりません。

次代につながる未来。持続可能で、より良い世界を築くために何をしたらいいのか。みなさん一人一人が取り組んでいきたい目標を考え実践していきましょう。

令和元年度「健康づくり・食育フォーラム」を開催しました!詳しくは、「長野県魅力発見ブログ」をご覧ください。
<https://blog.nagano-ken.jp/nagachi/other/24693.html>



おすすめ
レシピも
掲載!